

Child Rights Education (CRE)

子どもの権利を大切にする教育 先生のための実践ガイド

1989年に国連総会で採択された「子どもの権利条約」。子どもたちが心も体も健やかに、もって生まれた可能性を十分に伸ばしながら成長できるための権利を包括的に定めたこの条約は、現在までに世界で196の国と地域が締約。世界で最も広く受け入れられている人権条約となっています。ユニセフは、この「子どもの権利条約」を活動の基盤とし、世界のすべての子どもの権利の実現と推進を目指して活動しています。

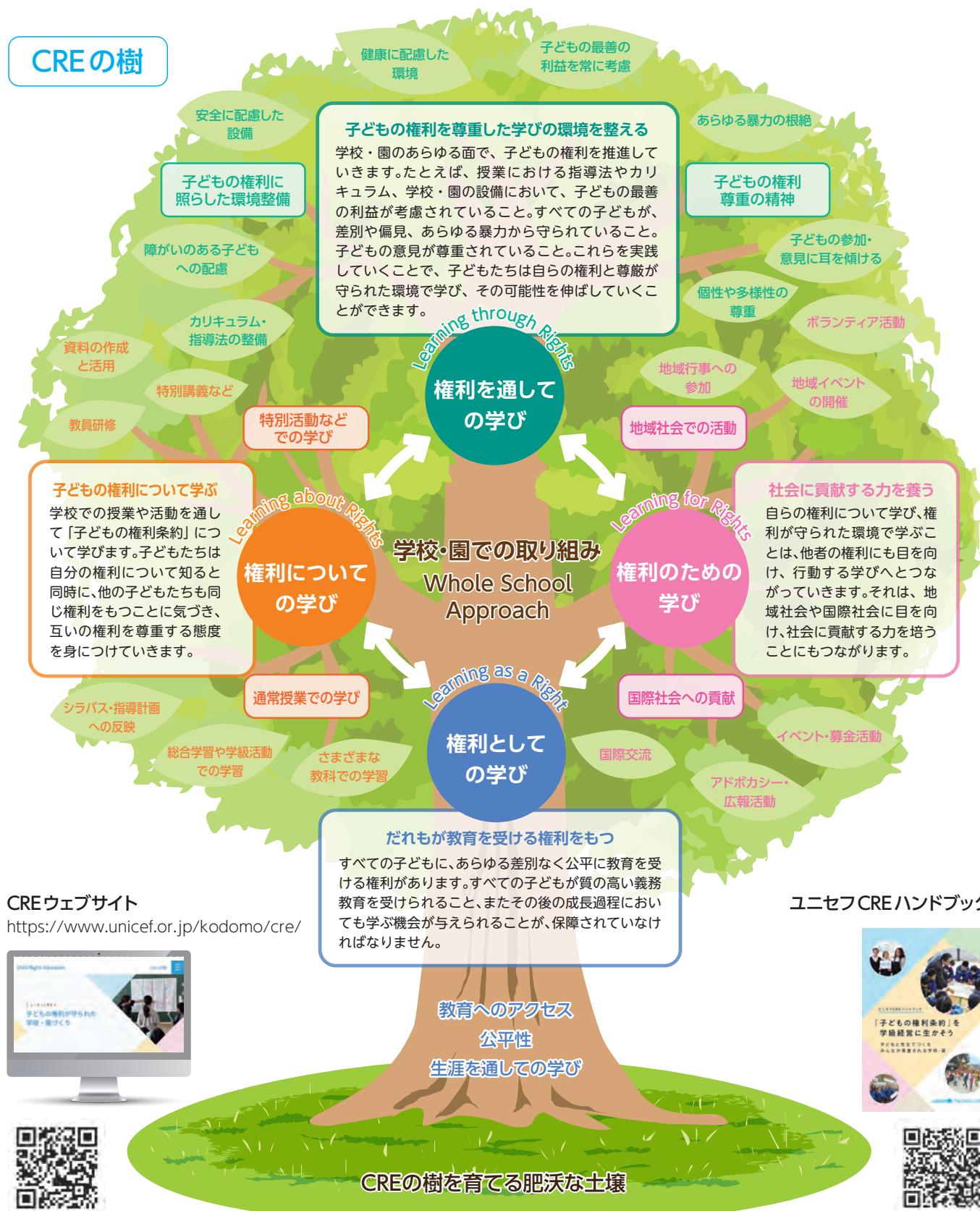
日本政府も「子どもの権利条約」を1994年に批准しました。日本の子どもたちにとっても大切な条約です。にもかかわらず、日本ではまだあまり知られていない条約かもしれません。一方で、2023年には「子ども基本法」が施行され、日本国内でも子どもの権利を尊重する社会づくりが求められています。

子どもたちが一日の多くの時間を過ごす学校・園でも、ぜひ「子どもの権利」の視点を日々の生活や学びに取り入れてみませんか。「子どもの権利」についてともに学び、子どもたちの権利を推進していくことが、子どもたちの自己肯定感を育み、みんなが安心して生き生きと過ごせる教育環境づくり、そして子どもたち一人ひとりが未来に向かって可能性を伸ばす力につながっていくことでしょう。



子どもの権利が守られた学校・園づくり

ユニセフの提唱する「Child Rights Education (CRE)：子どもの権利を大切にする教育」は、さまざまな側面から学校・園において子どもの権利を推進し、子どもの力を育て可能性を伸ばしていくことを目指します。すべての子どもの「学ぶ権利」を保障すること。人権と子どもの権利について学び、理解を深めること。子どもたちの権利が守られた教育環境を整えること。他者の権利にも目を向け、社会に貢献する力を養うこと。CREはこれらの4つの側面から構成されています。そして、このCREの提唱する取り組みを、ひとつの大きな樹にたとえて表現したものが、以下のイラスト「CREの樹」です。この樹全体が学校・園を表し、具体的に教育活動のどのような場面で子どもたちの権利を推進できるか、またどのような活動に取り組めるかを提示しています。



学級目標づくり

みんなの権利が守られた学級づくり 「私たちの学級憲章」をつくってみよう



ユニセフは、教育現場で子どもの権利を推進する具体的な取り組みとして、「子どもたちの権利が守られた学級憲章（学級目標づくり）」を提唱しています。先生も子どもたちもともに「子どもの権利条約」を通して子どもの権利について学び、一人ひとりの権利が大切にされる、みんなにとって過ごしやすく学びやすい学級をつくるために、自分たちにできることは何か、また権利を尊重するということはどのようなことかなど、話し合いを重ねながら「学級憲章（学級目標）」としてまとめていきます。子どもたちが主体的に考え方行動する力を養うとともに、自分でなく他の権利にも目を向ける機会になります。ぜひ学級目標づくりの過程に、「子どもの権利」の視点を取り入れてみてください！

令和4年度にこの活動に取り組まれた西東京市立保谷小学校での活動のようすとともに、「子どもたちの権利が守られた学級憲章（学級目標）づくり」のプロセスをご紹介します。

学級憲章（学級目標）づくりのプロセス

1時間目

子どもの権利を知ろう



まず最初に、「子どもの権利条約」の学びを通して子どもの権利についての理解を深めます。大切な権利、守られていると思う権利や、逆に守られていないと思う権利などの話し合いを通じて、「子どもの権利条約」が定める具体的な権利について知り、自分たちとのつながりを考えます。



2時間目

大切な権利を選んでみよう



子どもの権利についての学びをもとに、これから的一年間、一人ひとりの権利が大切にされるクラスをつくるためには、「子どもの権利条約」のどの条文が特に大切か、どのようにみんなの権利を守っていくか話し合い、先生も子どもたちとともに考えていきます。



3時間目

学級目標を書いてみよう



これまでの話し合いの内容をふりかえりながら、選んだ「子どもの権利条約」の条文をもとに、目指すクラス像を学級目標としてまとめています。グループごとに発表したり、みんなでアイディアを出し合ったりしながら、先生も一緒に学級目標に入れる言葉を紡ぎます。



学級目標を掲示しよう



子どもの権利についての学びを通してつくられた学級目標を模造紙に描き、クラスのよく見えるところに掲示します。これから的一年間、学級目標をふりかえりながら、みんなの権利が大切にされる学級を目指して努力を重ねていきます。



学級目標づくりの成果

学級目標に「子どもの権利条約」というしっかりした根拠ができただけでなく、学級目標づくりの視点が広がったと感じます。

「子どもの権利条約」を通して「学ぶこと」の意味を知ることにより、子どもたちの中に「自分の力を最大限に伸ばしていく」という意識が生まれたのは大きな意義の一つです。子どもたちの学びに対する意欲が増していると感じます。

「権利を知ったから道徳の授業でもより深く考えられるようになった」、「この条約が世界のもっとたくさんの人に伝わって、もっとたくさんの人が救われるといいなと思った」など、他の教科やSDGs学習につなげて考えるなど、子どもたちがより広い視点で社会を見るができるようになりました。

先生方からのコメント



担当された先生方もたくさん効果を感じていらっしゃいました。

子どもたちから、「自分だけでなく、友達の権利も大切にすることを意識しながら生活できるようになった」という声が聞こえてくるようになりました。

自分自身も子どもたちと一緒に「子どもの権利条約」について学べたことに、とても大きな意義があったと感じます。「子どもの権利条約」の学びは、今後の自分自身の教育活動の軸となっていくことだと思います。

授業プラン 子どもたちの権利が守られる 学級目標づくり





日々、忙しい学校生活を送る先生方が「子どもの権利条約」について学び、子どもの権利尊重の視点から教育活動を行う機会は少ないかもしれません。子どもたちの権利が守られた学校・学級づくり、そのスタートラインとして、学校環境についてさまざまな視点からふりかえってみませんか。以下の質問に答えてみてください。よく守られている項目もあれば、課題の残る項目もあるかもしれません。課題の残る項目をどのように改善していくかを考え実施していくことが、子どもの権利が守られ、子どもたちが安心して生活し可能性を伸ばすことができる、よりよい学校づくりへの一歩になるでしょう。

		とても そう思う	そう思 う	あまり 思わない	全くそ う思わない
子どもの 権利の理解	先生たちは「子どもの権利条約」について学び理解している				
	子どもたちは、学校で「子どもの権利」について学ぶ機会がある				
健全な 学校環境	学校の給食は、子どもの体のことをよく考えて提供されている				
	学校には、子どもが十分な運動ができる環境が整えられている				
	心と体の健康を保つ生活について、子どもたちは学校で学ぶことができる				
精神面の 健康	学校には、必要な時に子どもたちから相談ができ、心理的なサポートをしてくれるおとながいる				
	学校・学級では、子どもたちに過度のストレスを与えないよう、常に配慮がされている				
	サポートが必要な子どもにいつでも手を差し伸べられるよう、先生は子どもたちの日々の状態（ウェルビーイング）に目を配っている				
教育の質	授業を受けることや理解することが難しいと感じる子どもは、個別のサポートを受けることができる				
	学校の教室や設備はよく整備され、子どもたちは快適に学校生活を送っている				
	子どもたちは学校での学びを通して、自分の可能性を伸ばすことができている				
安全性	学校・学級では、先生と子どもたちが互いに尊重し合い、子どもたちは安心して過ごせている				
	校内でいじめが起きた際の対応が決められていて、学校は責任をもって迅速に対応することができる				
	校舎は安全かつ清潔である（火災報知器の設置、トイレの衛生状態、空調設備の設置、など）				
意見表明と 公平性	学校・学級で子どもが何かを変えたいと思ったときには、相談することできるおとなが学校内にいる				
	児童・生徒会の活動は活発で、先生は子どもたちの自主的・実践的な取り組みを大切にしている				
	学校・学級では誰も差別されることなく、みんなが平等に過ごせている				

同じ質問項目を、児童・生徒会などを中心に、ぜひ子どもたちにも考えてみてもらいましょう。先生方と子どもたちで、似た回答になる項目があれば、もしかしたら相反する回答の多い項目もあるかもしれません。ぜひ、子どもたちの声に耳を傾けてみてください。子どもたちと先生方が回答を共有しながら、ともに考え方を合えれば、よりよい学校づくりにつながっていくでしょう。



お知らせ

先生方とともに児童・生徒会が主体となって学校生活を自己評価し、よりよい学校づくりにつなげていくための実践ガイドを、来年度に発行する予定です。



世界の課題とSDGs

2015年に国連にて採択されたSDGs（「持続可能な開発目標」）。2030年までに達成を目指す17個の目標と169個のターゲットを掲げ、政府や国際機関、企業だけでなく、すべての人がそれぞれの立場から目標達成のために行動することが求められています。SDGsのキーワードは「誰ひとり取り残さない」。持続可能な開発を進めていく過程で、子どもなど弱い立場にいる人びと、もっとも厳しい環境下で暮らす人びとを、置き去りにしないこと。誰も取り残さない持続可能な社会を築いていくことが、国際社会の決意として掲げられています。



まだ先のことと思っていたSDGsの達成期限も数年後に迫ってきました。人びとの努力が実り成果が出ている分野も多くある一方で、世界は以前にも増して複雑に絡み合う多くの課題を抱えています。世界各地で起こる対立や紛争。未曾有の規模で世界に広がった感染症。深刻さを増していく気候変動の影響…。これらが引き起こす格差の拡大や世界的な食料危機。そして、世界のどこかで起こる出来事が複合的に絡み合い、日本に住む私たちを含め、世界の人びとの生活に影響を及ぼしています。



©UNICEF/UN0698977/Zaidi



©UNICEF/UN0639620/Ayen



©UNICEF/UN0597997



©UNICEF/UN0747463/Zehbrauskas

気候変動の影響で、大規模な豪雨や洪水に見舞われる地域が世界中で増えている。家や農地が流され、学校も被害を受け、子どもたちの学ぶ機会が奪われる。さらに、衛生環境の悪化や感染症の蔓延が、子どもたちの命と健康をおびやかす。

干ばつも激しさを増し、人びとの生活に深刻な影響をおよぼしている。農作物が育たず、家畜が失われ、多くの子どもたちが栄養不良におちいる。さらに、水くみに時間を要し学校に通えなくなるなど、さまざまなかたちで子どもの権利をおびやかす。

世界で頻発する対立や紛争。学校や病院、民家までもが攻撃を受け、人びとから容赦なく平和な暮らしを奪い、子どもたちの未来や希望は失われる。さらに紛争の影響は食料やエネルギー危機、また対立の種となって、世界に広がっていく。

長引く紛争や政情不安、そして気候変動の複合的な影響を受け、極度の貧困の中で暮らす人びと、命にかかる重度の急性栄養不良や、将来にも影響をおよぼす発育阻害に苦しむ子どもたちの数が、いま世界各地で増えている。

子どもの権利とSDGs

日本の学校でも学習が進められているSDGs。世界の課題やSDGsの目標を考えるとき、ぜひそれらを「子どもの権利」という視点から見てみましょう。SDGsの17個の目標を、「子どもの権利条約」と並べて見てみてください。SDGsの目標には、子どもの権利と重なる目標も多いことに気づくでしょう。SDGsの目標の背景にはさまざまな世界の課題があり、そして、そこには基本的な権利を奪われている大勢の人びとがいます。とりわけ、弱い立場にいる子どもたちには大きな影響がおよびます。世界の直面する課題を解決していくことは、子どもたちを含めた、たくさんの人びとの権利を実現していくことにつながるのです。

学校でのSDGs学習の際には、SDGsと子どもの権利を結びつけて考えてみることが、より広い視点での学習につながるでしょう。たとえば、SDGsの背景にある課題が、子どもたちからどのような権利を奪っているか、また目標の達成が、どのような子どもの権利の実現と結びついているかなどを考えて、「子どもの権利条約」の条文を選んでみましょう。すべての課題は、人が生きることと関係しています。SDGsを学ぶ際に「人権」の視点は欠かせません。このような学びが、子どもたちの中に広く人権や多様性を尊重する意識を育むだけではなく、世界の仲間たちとともに歩むことのできる、持続可能な社会の創り手としての成長にもつながっていくことでしょう。



子どもの権利条約

上にある写真の中の子どもたち。どのような権利が奪われているか、SDGsのどの目標と関連しているか、子どもたちの権利を実現し、誰も取り残さない社会を築いていくためには何が必要か、などをみんなで話し合ってみよう。



SDGs関連教材はこちらから

SDGs副教材

SDGs学習用ウェブサイト
SDGs CLUB

ユニセフの「子どもの権利」関連資料およびウェブサイトをご活用ください

掲載資料は、こちらからご覧いただけます ▶ CRE ウェブサイト 役立つ資料・情報
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/cre/info/>



子どもの権利条約
カードブック
(B5冊子／30ページ)



学習資料
子どもの権利条約（第1～40条抄訳一覧付き）
(A3／1枚／両面)



先生向け
ユニセフCREハンドブック
(A4冊子／14ページ)



先生向け
ユニセフCRE実践記録
(A4冊子／10ページ)



授業プラン
子どもの権利が守られる
学級目標づくり
(A4冊子／4ページ)



「子どもの権利条約」
特設サイト
<https://www.unicef.or.jp/crc/>



「子どもの権利」
子ども向け学習サイト
<https://www.unicef.or.jp/crc/kodomo/>



CRE ウェブサイト
子どもの権利が守られた学校・園づくり
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/cre/>

● 資料をご希望の方は FAX またはメールにてお申し込みください。

冊子名	値段	希望冊数
子どもの権利条約カードブック	1 冊目無料／2 冊目から 60 円	
学習資料 子どもの権利条約（第1～40条抄訳一覧付き）	無料	
先生向け ユニセフ CRE ハンドブック	無料	
先生向け ユニセフ CRE 実践記録	無料	
授業プラン「子どもの権利が守られる学級目標づくり」	無料	

学校・園名	
ご担当者名（職）	
ご住所	〒
電話	
Eメール	@

※学校・園からご注文いただく際には送料はかかりません。

実費ご負担分については、資料送付時に同封する振込用紙にて後日送金をお願いいたします。



FAX: 03-5789-2034 Eメール: se-jcu@unicef.or.jp

公益財団法人 日本ユニセフ協会 〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス
TEL: 03-5789-2014 ホームページ: www.unicef.or.jp

発行: 2023年9月
第3版発行: 2024年11月